

●日本遺産「北前船寄港地・船主集落」

(1) 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
～北前船寄港地・船主集落～（石狩市）

平成30年5月、石狩市は全国の38市町の一つとして「日本遺産」に認定されました。北前船とは、江戸時代中期から明治にかけて、大阪を基点に日本海を北海道まで航行した帆船の商船のことです。

石狩市では当時、ニシンやサケがよく獲れており、ニシンは食品のほか、ニシン粕に加工され、綿花、桑、藍、菜種、楮、果樹の肥料として利用されるなど非常に需要があり、サケは高級食材として人気であったため、全国からはるばる北の海まで買い付けに訪れていました。



北前船ジオラマ（あいろーど厚田）



厚田神社の船絵馬



厚田神社の豊漁記念碑



石狩八幡神社鳥居

■石狩市の日本遺産構成文化財

名称	所在地	指定年月日	摘要
旧長野商店	石狩市弁天 30-4	H30.5	北前船で財をなした新潟県出身の長野徳太郎が、明治7年(1874年)に親船町で創業し、米、塩、呉服、反物販売のほか、酒造を営んだ商店。
古潭神社の神輿	石狩市厚田区古潭	H30.5	明治13年(1880年)に押琴湾に大嵐の波風が押し寄せ、停泊していた北前船の多くが被害にあったが、この時に何の損害も受けずすんだ久吉丸の船主が「神仏の加護である」と喜び、翌年大阪から神輿を積んできて奉納した。
金大亭	石狩市新町1	H30.5	明治13年(1880年)に、新潟出身の石黒サカにより創業された料亭。石狩鍋を考案した店として知られている。
厚田神社の船絵馬	石狩市厚田区厚田1番地	H30.5	船絵馬は明治中期に厚田神社に奉納され、北前船と鯨漁で繁栄した厚田の様子を今日に伝える貴重な資料である。
石狩八幡神社鳥居	石狩市弁天町1番地	R1.5	鳥居は元々石狩弁天社のものであったが、明治7年に弁天社地内に石狩八幡神社に移った際、開拓史の命により石狩弁天社が現在の所在地に移され、鳥居だけが残されたものである。
石狩弁天社狛犬	石狩市弁天町22番地8	R1.5	北前船で奥州と蝦夷地を結び、石狩場所に係わった船乗りが、航海の安全を祈願して奉納したものであり、江戸時代後期の寄港地のつながりを今日に伝えている。
旧白鳥番屋(石狩市はまます郷土資料館)	石狩市浜益区浜益77番地1	R1.5	安政3年(1856年)白鳥栄作が鯨漁業を営んだのが白鳥場所の始まりであり、2代目となる白鳥浅吉によって明治32年(1899年)に建設されたのが旧白鳥番屋である。
浜益沖揚げ音頭	石狩市浜益区浜益2番地3 石狩市浜益支所 生涯学習課	R1.5	鯨を沖で揚げるときに歌われていた労働歌であり、現在では毎年、はまますふるさと祭り(9月開催)にて披露している。

●日本遺産「炭鉄港」

(2) 本邦国策を北海道に観よ！

～北の産業革命「炭鉄港」～（江別市）

平成31年5月に道内12市町の遺産が炭鉄港の構成文化財として「日本遺産」に認定され、令和6年6月には、新たに江別市内の文化財が日本遺産として追加認定されました。

炭鉄港とは、「北の産業革命」ともよばれた石炭採掘、鉄鋼産業と、それらを出荷した港湾都市とをつないだ鉄道がもたらした北海道の近代化の遺産であり、北海道が急成長を遂げることでできた大きな要因となっています。

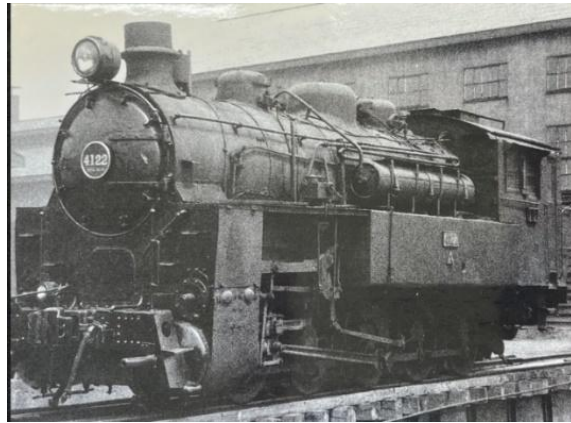
その中で江別市は、近代化に欠かせない製紙工場や製鋼所に使われる「レンガ」を主に生産しており、炭鉄港の縁の下の力持ちのような存在でした。また、炭鉱からの石炭搬出、事業材料など物資輸送の増強を目的に鉄道が設立され、その始発駅は野幌だったとされることから、鉄道や石炭とも関わりのあるまちとなっています。



王子エフテックス江別工場のれんが倉庫群



米沢煉瓦工場



山田コレクション

■江別市の日本遺産構成文化財

名称	所在地	指定年月日	摘要
北海道炭礦鉄道野幌煉瓦工場のれんが	江別市西野幌 114 番地 5	R6.6	同社で生産されたれんがは、旧北海道炭礦鉄道岩見沢工場（岩見沢レールセンター）などの北炭施設をはじめ、日本製鋼所室蘭製作所など炭鉄港ゆかりの建造物に使われている。
王子エフテックス江別工場れんが倉庫群	江別市王子 1 番地	R6.6	前身の富士製紙第五工場として、1908（明治 41）年に操業開始。軌道の敷設、市街地へ電灯設置など、江別市の近代化に大きく寄与した。
米沢煉瓦工場	江別市元野幌 227 番地	R6.6	1939（昭和 14）年に設立され、道内で操業中の煉瓦工場では最古の工場である。創業以来、えべつの窯業とともに歩み続け、「野幌煉瓦」を生産している。
炭鉱鉄道遺産群（山田コレクション）	—	R6.6	三菱鉱業美唄鉄道線、三菱石炭鉱業大夕張鉄道線、北海道炭鉱汽船夕張鉄道線などの炭鉱路線で活躍した蒸気機関車等15両と鉄道施設備品などから構成されている鉄道資料群である。現在は民間団体が保存している。